

東京都豊島区認知症疾患医療センターとしての認知症診療

豊島長崎クリニック 認知症疾患医療センター

副センター長 谷 恵梨子 先生

「先生、私はまだ認知症なんかないし周りも私と同じくらいよ。」

認知症の方を診療したくても患者さんがこのように発言する、お困りになったことがおありではないでしょうか。

当院は外来診療と訪問診療をあわせもつ東京都豊島区の認知症疾患医療センターです。

精神科専門医や内科専門医など複数の医師が在籍し、認知症をはじめとした慢性疾患の診療にあたっています。看護師、精神保健福祉士の国家資格を持った認知症専門の相談員もおり、患者様やそのご家族の相談をお聞きし、医療面や療養環境面から支援を行っています。

当院の特徴は訪問診療を行っていることです。自宅に訪問すると観察できることは診察室よりずっと多く、家の広さや急な階段、歩行の様子、家事は誰が行うのか、睡眠環境など、外来よりずっと多くの情報を得ることができます。内服出来ていない大量のお薬が見つかるという状況も少なくありません。自宅というリラックスできる空間のためか外来から訪問診療に切り替えると外来より朗らかに普段の様子について語ってくださる方もいます。「ここには柵があったほうがいいかな」、「ご家族が夜しかいないから薬は1日1回の方がよさそう」など様々なアイデアが浮かびます。

その情報をもとに、患者さんの「まだまだ活動的に過ごしたい」という気持ちを尊重しながら治療方法を一緒に考えます。具体的には介護保険サービスや訪問看護など、様々な社会資源のうちどれを利用するとよいかアドバイスし、申請方法の紹介を行っています。そして実際に行ってみて効果が乏しければ、またほかの方法を考えるとというトライアンドエラーを繰り返していきます。独居でゴミだらけのご自宅で過ごした方が、環境調整や薬剤調整を行い、ご自宅で数年間生活されている様子を診るのは感慨深いものです。

また、ご家族がご本人の妄想や易怒性などの周辺症状にお困りの際は、薬剤調整や介護保険サービスの導入、場合によっては地域の病院への入院調整も行っております。こちらは一筋縄にはいきませんが、入院するとADLが下がってしまうことも多く、内服ができれば訪問診療も十分な選択肢になりえます。

月1回、認知症本人ミーティングを「豊島長崎オレンジサークル」という名称で行っております。コメディカルを交えながら、認知症当事者同士で「もの忘れの困りごとをどこに相談する？」といった実際に起こりうる身近なテーマで話し合ったり、季節に合った工作を中心とした作業療法的なアプローチを行ったりしています。初期段階の認知症の方は「もの忘れがある」ことは認識していることも多く、それにより不安がある方もいます。当事者同士で気持ちを共有することにより、安心感を得て対応方法について学ぶことができるため大変好評です。

普段外来で診ている患者様で「薬を増やしても薬の効果が出ない」場合はお薬が飲めていないかもしれませんし、「最近受診が不定期」な場合は日時見当識が障害されているかもしれません。その際は「そろそろ物忘れの検査をしに行ってみませんか？」と当院受診を患者様に軽く提案していただきたいです。認知機能低下のため内服できていなかったお薬が治療と環境調整により、再び飲むようになると先生方の治療もずっと効果が出やすくなるかと思えます。初診時は冒頭のようなことをおっしゃる患者さんも非常に多いですが、実際に心理検査や頭部画像を確認し説明することで、治療の必要性をご理解いただけることは非常に多いです。

これからは認知症の方が増えていく時代です。早期発見は普段診療なさっている先生方にかかっていると言っても過言ではありません。診療中お忙しいとは存じますが、折をみて患者様にももの忘れ診療を勧めていただければ幸いです。

これから認知症の方が増えていく時代です。早期発見は普段診療なさっている先生方にかかっていると言っても過言ではありません。診療中お忙しいとは存じますが、折をみて患者様にももの忘れ診療を勧めていただければ幸いです。



＜オレンジサークルにて作成したアジサイ＞